

第4章 目標を達成するための取り組み

第1節 上サロベツ湿原の乾燥化対策

1. 高層湿原の乾燥化対策

地下水位の変動状況と植生変化等の、モニタリング調査を継続的に実施します。また、湿原の乾燥化実態を把握した上で湿原の乾燥化抑制を図ります。

2. ササの侵入抑制対策

湿原へのササ侵入の実態調査を実施しつつ、これまでの成果を踏まえ、湿地溝や道路側溝などによる水の流出に対策を講じることやその他の方法により、ササの侵入抑制を図ります。

3. サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策

湿原地下水位の上昇と安定をもたらすために、放水路の維持管理に支障が生じないように配慮しながら、水抜き水路の堰上げなどを行い、湿原の乾燥化を抑制します。

さらに、地下水位の変動状況と植生の変化等をモニタリングしながら、植生の管理誘導を図ります。

4. 湿原と隣接農地の共存に向けた検討

湿原に隣接する農地では適度の排水が望まれるのに対し、湿原の地下水位は高く保持されることが必要です。現状では農地と湿原の保全・再生の両立が困難な状況にあることから、農地と湿原の隣接状況、現地の営農、土地利用、土地所有者等の現状を踏まえて、関係者の合意を基本に実証試験等を行いながら、農地と湿原の共存方法の検討を進めます。



15) 「サロベツ全体構想リーフレット」、環境省西北北海道地区自然保護事務所、2004年(平成16年)、p.6

第2節 湖沼への土砂流入と河川水質対策

1. ペンケ沼の土砂流入の実態調査及び対策方策の検討

ペンケ沼は、上流域からの土砂流入等により埋塞が進行しています。しかし、現在のペンケ沼は水生植物が豊富で、イトウ、タンチョウ、オオヒシクイの生息も認められ、サロベツ湿原生態系の中で重要な位置を占めています。この状況を持続しつづけるための対策を関係機関と連携して講じるものとします。

2. 湿原内湖沼の汚濁物質流入対策

湿原内湖沼に流入する汚濁物質の負荷が軽減されるような方策を検討します。またサロベツ川は、利尻礼文サロベツ国立公園内を流下して天塩川へと流入していることから、湿原や河川下流域に対する汚濁物質の負荷が軽減されるような方策を検討します。

第3節 泥炭採取跡地等の再生

泥炭採取跡地の多くは開水面として残っていることから、湿原植生の再生と創出の方策を講じます。また既に水面が閉塞しながら植生の回復が進まない区域については、その促進方策の試験的事業を進めます。

第4節 砂丘林帯湖沼群の水位低下対策

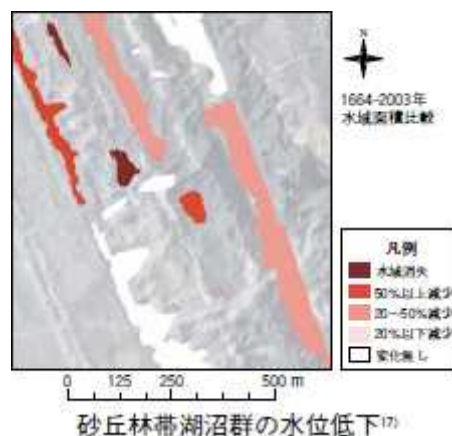
砂丘林帯湖沼・湿原群は、非常に優れた自然ですが、原因不明の水位低下が指摘されていることから、その状況を早急に把握し、原因を解明して、対策を講じるものとします。

1. 水位変化の実態調査

砂丘林帯湖沼群の水位が低下し、開水面も減少傾向にあるものの、その実態は不明な点が多くあります。そこで、砂丘林帯湖沼群の成り立ちも踏まえた水環境の実態を把握します。

2. 生態系調査

砂丘林帯湖沼群の生態系の構造と、水位低下が生態系に及ぼす影響を把握します。



3. 水位低下対策

砂丘林帯湖沼群の水位変化の実態調査及び生態系調査の結果を基に、水位低下の対策を検討します。

17)「平成16年度サロベツ自然再生事業自然環境調査業務報告書」、環境省西北北海道地区自然保護事務所、2005年(平成17年)、p.4-52

第5節 地域の自然・資源の活用及び情報発信

1. 地域の自然・資源の活用

地域住民及び関係機関が連携し、地域の自然や資源を活かした環境教育、自然や農村の観光や体験などへの活用を図ります。また、近隣市町村等との情報交換なども含め、周辺地域も視野に入れた自然や資源の活用を図ります。

また、自然と共生した農業の振興を通じた取り組みから、安全・安心な牛乳、農産物等のブランド化を推進します。

2. 多様な主体がアクセス出来る共通情報基盤の構築

連携する関係機関の協力も得つつ、事業において収集したデータ等を集積し、データベースの構築、ならびにインターネットや地域住民への広報活動等を活用した情報の公開を促進します。

3. ビジターセンター等の活用推進

現在の豊富ビジターセンター及び原生花園園地(湿原探勝歩道)の機能を丸山地区に移設します。ビジターセンターを拠点として、周辺の自然や観光資源を広域的に活用するための多角的な検討を行います。さらに自然と切り離せない開拓や泥炭の利用の歴史など、人の営為と自然との共生を学ぶ場としての利用も図ります。

さらに、サロベツ原生花園を訪れる人々に上サロベツ湿原の素晴らしさを的確に伝えるためのインタープリテーション機能を充実させます。